

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
270	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
An investigation of the effects of alcohol policies on youth STDs. 若年層における STD (性行為感染症) に関するアルコール政策の影響の検討	
執筆者	
Grossman M, Kaestner R, Markowitz S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Adv Health Econ Health Serv Res. 2005;16:229-56.	
キーワード	
若年層、STD (性行為感染症)、政策	
要 旨	
<p>若年層における STD(性行為感染症)の発症を抑えるためのアルコール政策の効果を検証した。従来の研究では、STD に罹るリスクの高い性行為 (例えば避妊用具を使わない性行為や複数のパートナーとの性行為) がアルコール摂取と大きく関連していることを示している。アルコール摂取がリスクの高い性行為の原因であるならば、アルコール摂取を減らす政策は STD の罹患率も減らすかもしれない。我々は 10 代の若者や成人した若者における淋病と後天性免疫不全症候群 (エイズ) の率とビール税、アルコール販売、飲酒運転などのアルコール政策との関連を調査した。その結果、高いビール税が男性の淋病の罹患率の低下と関連があり、後天性免疫不全症候群 (エイズ) の罹患率の低下とも関連があることが示唆された。これらの事から、飲酒を一切許さないという厳密な飲酒運転の政策は、法的に飲酒が許されていない年齢以下の男性の間での淋病の罹患率も下げるかもしれないという事が考えられる。</p>	